

猿 橋
小 学 校

瑛 玖 良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

新しい出会い

校長 澁谷 一男

今月初旬、初夏のような陽気に誘われて、校庭の桜は一気に満開となった。それが見頃を終える頃、「安兵衛手植松之子」の脇のしだれ桜とグラウンド脇の八重桜が、今年も見事な花を咲かせた。1年生の教室の外では、子どもたちが大切に植えたチューリップが次々と花開き、児童玄関ではビオラとパンジーが子どもたちを迎える。学校はまさに百花繚乱の季を迎えた。



別れの月が改まり、出会いの季節となった。今年度は17名の転入・新採用教職員を迎え、新たなスタートを切った。総勢58名、全教職員で子どもたち一人一人の成長のために力を尽くして参りたい。

新しい出会いは、常に期待と緊張感そして、一抹の不安を伴う。5日の始業式に臨んだ子どもたちも、一様にそんな心持ちだったに違いない。500名を超える子どもたちが、静かに背筋を伸ばし、しっかり目を向けて話を聞いている。猿橋小学校建学の精神「瑛玖良」を今に引き継ぐ合言葉「ともに きらきら かがやこう」を子どもたちと再確認した。続いて学級担任を発表すると告げると、子どもたちが一瞬どよめいた。これも期待と緊張感の表れか、それとも一抹の不安か。いずれにせよ、子どもたちにとっては、大きな新しい出会いである。

人は慣れる生き物だ。慣れによって不安は徐々に薄らいでいこう。しかし、今の期待と心地よい緊張感は持続させることができたと思う。この出会いを大切にしてほしい。

翌6日、この日の主役たち107名を、満開の桜が迎えた。入学式、彼らにとって新しい出会いの儀式である。それにしても、昨年につき、今年の新入生も実に立派だった。大勢の中であって、それこそ期待より緊張感と不安の方がずっと大きかったであろうに、落ち着いた態度は見事であった。明るく元気な挨拶ができるようにとの呼び掛けにも、元気に答えてくれた。

毎朝、1年生の教室では、6年生が「お世話係」として、学習準備の支援、絵本や紙芝居の読み聞かせ、「校歌」や「猿小の友」の伝達など、大活躍している。頼りにする方される方、ここにも新しい出会いがあった。

それぞれの出会いから、どんなドラマが繰り広げられていこう。

今年度もよろしくお願いたします。